

地蔵菩薩坐像

建長寺の本尊はサンスクリット語でクシティガルバとして知られる地蔵菩薩です。菩薩は他者を救うために自らの悟りを後回しにしている者のことであり、地蔵は冥界で苦しむ魂たちがいなくなるまでは完全な悟りを開かないことを誓ったとされます。日本では地蔵はよく僧として描かれており、慈悲深い 1 尊であり、旅人や子供たちの守護者であると考えられています。

地蔵は日本で最も人気のある仏の 1 尊であり、赤い帽子と胸当てを着た小さな像として現れるのが一般的で、お墓や道端によく見られます。しかし、寺の多くには小さな地蔵の像があるものの、地蔵が大きな寺の本尊となるのは珍しいことです。この地域における地蔵の存在感建長寺の建立前まで遡ります。

建長寺が 1253 年に建立される以前、建長寺の所有する土地の一面は処刑場でした。そこには処刑された者たちの魂のために、人々が地蔵にお祈りできるように地蔵の像が祀られていました。建長寺が建立されると、僧たちがその使命を引き継いだのです。

その木像は 15 世紀に造られたもので、高さはおよそ 2.4 メートル（台座を含めると約 4.8 メートル）あります。地蔵像は右手には歩くための杖を、左手には願いを叶える宝珠を持っています。

どなたでも地蔵へとお祈りを捧げることができます。参拝者はただ手を合わせ、深く頭を下げ、それから自分にとって重要なもののことを考えます。お祈りが終わったら、任意で木の賽銭箱にお金を寄付することもできます。